

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390102210		
法人名	医療法人社団 郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ菱形		
所在地	熊本県熊本市北区植木町滴水1703-3		
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 1 日	評価結果市町村報告日	令和2年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年2月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域交流の一環として、入居者と一緒に行事に参加したり、いきいきサロンなどで健康チェックや講師として話をしたり地域との結びつきを深めている。また、施設内にはその時々の飾り付けを行い、日常的に季節を感じていただけるよう努めている。食事についても管理栄養士が献立を立てており、旬の食材を使用したり、季節に応じた行事食を提供している。また敷地内には畑があり、旬の野菜を植え収穫し食事に添えたり、おやつや材料の使用し提供している。食事の形態や時間も入居者の状況や要望に応じ柔軟に対応している。また、母体が医院であるため医師との連携も図りやすく、入居者の状況を速やかに相談・対応が可能である。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開所以来地域との関わりを大切に取組まれています。地域住民も交えた運営推進会議では、入居者の日頃の外出の意義や生活の様子について等、活発な質疑や話し合いの様子がうかがえました。職員面談の際には理念の共有もよく行われ、入居者のケアに一丸となって取組まれている様子が聞かれました。食事は法人からの配食であるものの敷地内の野菜も利用した一品が添えられ、おやつは毎日入居者を交え手作りが提供されています。生活の場面毎に入居者は役割を持ち、関わりを持つケアが行われています。法人母体が地域に根付いた医療機関であるため、変調時の対応も家族にとっても大きな安心となっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・やすらぎ・感謝」と理念を定め、安心した生活を送って頂けるようなケアが実践できるよう心掛けている。ホーム内にも掲示し朝礼や職員会議、運営推進会議等でも報告するなど理念の共有に努め、カンファレンスの際にも理念を活用するよう努めている。	開所以来、職員だけでなく運営推進会議等を通じて地域や家族へも啓発を続けてきた。ケアに関しても「理念をもとに」を念頭に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の案内を頂いており、可能な範囲でお連れし交流できる場を作れるようにしている。地域の方からの依頼にも協力できるよう努めている。	従来からまちづくりが盛んな地域であり、入居者も出来る範囲で行事等へ参加している。事業所からも地域での健康チェックやサロンへ職員を派遣する等行っている。	地域行事等の機会には地域からの来訪を受ける入所者もある様子が聞かれました。地域に開かれた事業所となるよう更なる取組に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出前講座やいきいきサロン等、依頼があった際にはできるだけ協力している。地域運営推進会議においても、地域の方の状況相談があった場合は助言するように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回自治会長、民生委員、ささえりあ職員、家族代表の方を招いて開催し、入居者の状況や行事、職員の研修情報など報告を行なっている。6回のうち1回は食事会を計画し、入居者がどのような食事を摂取されているか知って頂く機会を設けたり、ケアプランについての説明も行なっている。	入居者の日々の生活についての報告だけでなく、地域の役員や地域包括支援センターを交えての様々な意見交換が行われている。地域からは理念の持つ意味や入居者同士の生活の様子等質問があった様子もうかがえた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの調査依頼には協力できるようにしている。事故が発生した場合は速やかに報告し、相談や疑問点が生じた場合は連絡を取っている。また、グループホーム以外のサービスが必要とされるような方の場合等はささえりあと連絡を取り対応頂いている。	市へは報告や相談、また地域包括支援センターからは運営推進会議への参加を頂き、日頃の事業所での取組みを伝えている。地域等における講師依頼には事業所からも職員を派遣し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針・アセスメント表等を備え付け、いつでも閲覧できるようにしている。また法人内と事業所内でも勉強会を開催し、知識・情報を共有できるようにしている。玄関に関してはセキュリティ面から施錠を行なっているが、入居者からの要望があれば解除し、職員が付き添い外出支援を積極的に行うようにしている。	隔月に開催される法人での委員会には職員が参加し、事業所内での勉強会も行っている。開所以来心配される事例は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止に関する勉強会が行われ学ぶ機会を得ている。事業所内でも虐待防止について朝礼などで確認し合えるよう心掛けている。虐待防止についての資料はいつでも閲覧できるように設置している。		

グループホーム サンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度に関するパンフレットを閲覧できるように設置したり、事業所内でも勉強会を計画している。ご家族より依頼があり、公証制度の活用にも協力し可能な支援を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはご家族と面談を行い、契約書・重要事項説明書に沿って説明を行なっている。解約の際には入居者の状況をふまえ家族の意向を確認し手続きを行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に事業所及び行政の苦情相談窓口について説明を行なっている。面会時やケアプラン説明時等に要望をお聞きするようにしている。頂いた要望等は記録や業務日誌に記載し情報を共有している。また、朝礼の時に意見交換を行い、すぐに実行できるように努めている。	契約時やケアプランの説明時だけでなく、家族の面会や運営推進会議時にも意見を聞く機会としている。得られた意見は職員でも共有しケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には法人の幹部も参加してもらっており、ケアや業務に関して意見交換を行い助言を頂いている。	職員は毎日の業務の中で管理者へ意見を述べる機会を持ち、管理者は必要に応じ法人へも報告・検討を行っている。また職員は役員も参加する毎月の職員会議や年数回の面談により、法人へも直接意見を述べる機会を持つてる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や家庭環境、健康状態を把握しそれぞれに応じた勤務状況を整えるように努力している。各自の希望に沿った休暇が取れリフレッシュできるよう配慮している。また、年1回は幹部との面談も行なわれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では全体を対象とした研修や経験年数や職種に応じた研修が計画されており、主任等研修・施設に勤務する看護師研修に参加している。外部講師を招いた研修もあり、学ぶ機会が設けられている。また、事業所内でも職員会議の際に勉強会を企画・実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管轄区域の管理者会や地域密着型の連絡会等への参加やRUN伴等のイベントを通じて同業者との交流や意見交換ができる機会を作っている。また、介護支援専門員は地区の協議会の研修会に参加し、学習や地域の同業者との連携を図るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり、病院や施設へ伺い事前に訪問調査を行なっている。その際に本人をはじめ関わりのあるスタッフやご家族から情報を得て本人の思いを汲み取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに何度かご家族にも訪問して頂く機会を設けている。家族の思いや要望を確認しケアに繋げることができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった場合、状況をよく確認した上で、グループホームの役割が果たせるか、その時必要とされている支援は何かを見極めるようにしている。他のサービスが必要と判断された場合は、状況に応じた施設等紹介できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で台拭きやトレー拭き、可能な方には自身の洗濯物量みや居室の掃除を行なって頂いている。おやつ作りの際にも形成や味付け等を一緒に行なってもらったり、畑の作業にはアドバイスを頂いたり、共に生活をしている者としての関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には生活の様子や掲示している行事の写真を用いて状況をお伝えるようにしている。不安等が生じた際にはご家族へ連絡し面会を依頼したり、お互いが安心できるような働きかけに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店への買い物や外食、自宅近辺へのドライブ等の外出支援を行なっている。馴染みの人の面会があった際にはゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	以前から利用していたレストラン等での食事やスーパーでの買い物、通院を利用した入居者の希望する場所へのドライブ等、入居者それぞれのこれまでの生活を大切に支援を行っている。家族の面会もよく見られ、毎週帰宅している入居者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や外出のグループ分けに関しては入居者同士の関係性を考慮し調整している。日常の関わりの中で会話が十分に成り立たない場合は職員が仲介したり、家事活動等を通じて孤立される方が出ないように心掛けている。		

グループホーム サンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も面会へ行き状況を伺うようにしている。退去後もご家族が連絡や訪問しやすいような環境作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動以外にも行動パターンや日常の様子をよく観察したり、何気ない会話の中からも意向を掴めるよう努力している。実際に要望があった際には可能な限り要望に沿えるよう努力している。	職員と入居者の日々の生活の中、通院時や入浴時等に意向が聞かれることも多い。外出や外食、買い物等、具体的な要望が聞かれた際には出来るだけ来訪する等取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た情報以外にも入居中必要が生じた場合は改めて本人やご家族より聞き出せるように努めている。また、これまで関わりのあった関係者にも話を聞いたり、アセスメントシート等を活用し状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを極力崩さないよう心掛け、本人のペースで生活して頂けるよう配慮している。個々の有する能力やその日の状況に関しては、情報を共有できるよう日々の記録に残し意見交換を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画更新時には全スタッフより意見をもらいカンファレンスを行った上で計画作成担当者が作成している。また毎月ケアプランの評価を行い、計画に対して振り返りを行うよう努めている。	基本的に3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。ケアカンファレンスでは各入居者の担当職員が前もって課題・意見を出し、それらに対して全職員で意見を出し合っている。ケアプランの評価・振り返りは毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践内容、入居者の状況や能力の程度等を記録に残すようにしている。出勤時には職員其々が介護記録に目を通し、情報の共有を図るよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況に応じ病院受診の調整・付き添いを行なっている。通院の必要がある際は送迎を行い、点滴等の医療行為が必要になった場合、看護師によりホーム内で施行する等、状況に応じた対応を行うよう努めている。		

グループホーム サンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば近所のスーパーへ日用品や食料品の買い物に出掛けたり、外食を計画し希望に沿った店を選び外出支援している。また入居前の生活スタイルを基に同法人の老健の理・美容サービスが受けられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の説明時に希望の受診先(投薬を含め)の希望を確認している。事業所の協力医療機関をかかりつけとする場合はもちろんのこと、他の医療機関がかかりつけである場合も状況に応じては受診に同行し、適切な医療が受けられるよう医師へ直接相談を行なっている。	入居以前からのかかりつけ医の受診を支援しているが、現状は協力医療機関を選ばれることが殆どの状況であり、通院は職員介助による。専門医等その他の医療機関受診の際は家族との通院を基本とするが、管理者判断の上で職員が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に何か変化があった際には速やかに介護職より報告してもらうよう日頃から声掛けを行なっている。また、看護師の視点から注意してほしいこと等を伝えたり、担当医と相談したりできるだけ早期に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は医療機関と連絡を取り、状況の確認や今後の方向性について相談を行なっている。また実際に訪問し状態を確認するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合の指針について説明を行なっている。重度化してきた場合には主治医や協力医、ご家族と相談している。事業所内でできることについて説明し意向に沿って方針を決定している。	入居時に入居者・家族へ事業所の指針等対応を説明しており、希望があれば関係機関と協力し支援を行う。現状では出来る限りの支援を行っているが、医療的措置が必要となった場合、協力医との連携により話し合いながら家族の意向に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回近隣の消防署にて救急蘇生の講習会を行なって頂き参加している。ホーム内でも救急蘇生法をフロア内に掲示し日頃から確認できるようにしている。また看護師による勉強会も予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼間・夜間想定)防災訓練を行い、1回は入居者も含めた訓練を行なっている。職員間の緊急連絡網を作成し各自携帯している。すぐ近くに同法人の事業所があるため、災害発生時の対応など連携を図っている。地域の防災訓練にも参加し関係性を築くように努めている。	年2回の防災訓練は事業所単体で行っており、職員での振返りを行っている。今年度は地域の災害訓練にも参加し、事業所からコミュニティセンターまで徒歩での避難時間を確認した。	運営推進会議で事業所での訓練予定及び報告を行っている様子や地域との関係性が確認できました。事業所の防災訓練の状況を地域の方へ見て頂く機会を設けられることに期待します。

グループホーム サンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として接するように心掛けています。特に言葉遣いには十分に気を付け、一人一人の性格に合わせた声掛けや対応を行なっています。また共同生活ということに十分をわけまえ、発言内容やタイミングには配慮しプライバシーの保護に努めています。	日々のケアの中で職員の言葉遣いや対応で気になる時には管理者から職員へ都度伝えている。職員に対し「それがプライバシーにあたるのか」を考え意識付けるよう事業所として取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ意思決定がしやすいような声掛けの仕方や環境作りを工夫している。声掛けの内容に否定がある場合は理由を把握できるように歩み寄り、思いをつかめるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるものの、その中でも個人のその日の状況に応じ柔軟に対応するよう努めている。食事や入浴はできるだけ本人のペースや希望の時間に行なえるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣の際にはご自身で衣類を選択してもらうよう働きかけている。また定期的に散髪へお連れしたり、ご自身では十分に行えない方には整髪や髭剃り等の整容を直接支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用した食事を提供している。視覚でも楽しんで頂けるよう、メニューに応じて食器を選択している。メニューボードに記載し楽しみを持ってもらえるような工夫や、畑の野菜の収穫にも立ち会ってもらっている。また食事の準備や後片付けも一緒に行なってもらったりしている。	敷地の一角では季節毎の野菜が栽培されており、入居者の楽しみともなっている。管理栄養士による献立は入居者それぞれの好みにより代替食も提供されている。おやつは事業所で毎日手作りされており、入居者の関わりも見られる。	毎日の後片付けやおやつ作り、入居者の誕生会ではケーキを皆で作りに上げる様子も聞かれました。食事を生活の場とする取組の継続に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食確認し記録している。持病のある方に対しては食事量を微調整したり、水分摂取量が少ない方に対しては飲水量を記録したり、お茶以外にも好まれる飲み物を意識的に促すようにしている。固めの食材に関しては個々の状況に応じて一口大にカットし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや誘導を行い個々に実践している。能力が低下してきた方には直接介助を行なっている。義歯を使用されている方は夜間は外してもらい洗浄剤を使用できるよう援助している。必要に応じては協力医の歯科往診を依頼し口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム サンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレでの排泄を実施している。排泄チェック表を用いて記録し、排泄の状況やパターンの把握に努めている。汚染が目立つ方へは各食・おやつ前には必ずトイレ誘導を行い、汚染の軽減を図るよう努めている。	現在屋間のオムツ使用はせず声掛けや誘導によるトイレでの排泄を支援している。汚染が見られても安易にオムツへの移行は行わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、おやつに繊維の多い物を取り入れる等工夫している。水分量や活動量を把握し水分摂取や軽い運動を促し施行している。また、便秘傾向のある方には繊維粉を活用したり、野菜を好まれない方には野菜ジュースを摂取してもらう等自然排便を重視している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	偏りなく入浴してもらえよう予め曜日等は決めてはいるが、必ずしもその通りに行なうのではなく、その日の個人の状況に合わせて変更するようにしている。順番やタイミングについてはできるだけ希望に沿えるよう配慮している。入浴が困難な場合には足浴や清拭での対応も行なっている。	入浴は週3回程度とし、入居者の体調その他を考慮している。汚染があった時や入浴が困難な際も入浴予定に関わらず臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の疲労感などに応じた午睡のタイミングや時間を検討している。就寝時の室温や灯りの程度、衣類環境は個人に合わせて調整している。疲労感が強い方には入浴前や入浴後に次の活動までに休んで頂くなど、個人に合わせた休息の仕方を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表と説明書をファイル化し、介護職も薬の内容が把握できるようにしている。内服が変更・追加になった際には全スタッフが目を通せるように注意点を記録に残している。また与薬の仕方も個々の能力や状況に応じて工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に応じた役割を見つけ出し、日常生活で何か一つでも行なって頂くことで存在意義を感じて頂けるよう努めている。1回/月季節のイベントを行い、その際にもこれまでの職歴や生活歴を参考にし役割分担を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物等の希望があれば外出支援を行っている。意思表示ができない方にも時には近隣へのドライブを行い気分転換を図って頂けるようにしている。季節のイベントにはできるだけ外出する機会を作るように努めている。	毎日職員が関連事業所へ出向く際、入居者が同行する場合もある。近隣スーパーへの買い物や気分転換のドライブ等は日常的に行われている。入居者それぞれの家族の協力により、毎週帰宅する入居者も見られる。数人ずつの季節毎の外出等も計画し行っている。	



グループホーム サンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金は職員管理とし鍵のかかる場所に保管しているが、希望がある場合や外出の際にはお渡しし好きな物を購入して頂けるよう支援している。また希望があった際には職員が代行し買い物を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や本人が希望される場合は携帯電話を所持して頂いている。所持されている方は自由に電話のやり取りができるようにし、その他の方も希望された際にはご家族へ電話の取次ぎを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝職員がホーム内の掃除を行い、気持ちよく過ごして頂けるように努めている。時間帯に応じて光や室温の調整をするよう心掛けています。またフロアには季節感を感じて頂けるようその時期に応じた飾り付けなどを作成し、視覚からの取入れを工夫している。	芝生の中庭を囲んだ明るい造りの共用空間は車椅子での移動もゆったり出来る。外出時や行事毎の入居者の様子も飾られ日々の様子をうかがえる。居室の案内表示や自由に過ごすことのできるソファの配置等、その時の入居者の状況に配慮した工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、日光浴をされる際には廊下へ椅子を移動したり、自席以外でも思い思い過ごして頂けるよう配慮している。また自然と気の合う方同士のコミュニティが形成されており、それを妨げないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空室がある場合は和室が洋室かを選んで頂き、入居の際に馴染みの物は持参してもよいと説明を行なっている。大きな物の持ち込みはないが、ご家族の写真や好きな物(花飾り等)を飾って頂けるよう工夫している。	フローリング・畳敷きの居室がある。収納・ベッドも備え付けられ、すっきりと過ごすことが出来る。布団のクリーニング等、清潔にも配慮されている。	開設間もないこともあるかと思いますが、これから入居者の生活が営まれることで、更にそれぞれの日々の様子をうかがうことが出来るような居室となることに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は自由に行動できるようにしており、動線には移動の妨げになるような物を置かないよう配慮している。トイレや居室の迷いがある方には入口に名前を表示する等視覚から捉えられるよう工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズ菱形

作成日 令和 2年 4月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40 54	個人の好みや能力、個性を活かしたケアの取り組み	一人一人の個性を尊重し、充実した日常生活を送って頂けるよう支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常をよく観察し、個人の意向や嗜好等について把握する。また家族や馴染みの方の面会の際には積極的に関わり情報を得る。</li> <li>・事業所にておやつ作りを行なっているため、メニューに入居者の希望を取り入れ提供する。買い出しへの同行や個人の能力に応じた作業を分担し、共に生活していることを実感して頂けるよう働きかける。</li> <li>・入居者（家族も含め）と相談しながら個人の習慣や生活状況に応じた居室環境を整える。</li> </ul>	12ヶ月
2	2 35	入居者が地域との繋がりを保ち生活できる支援の取り組み	地域との関わりを持ち、馴染みの関係性を築くことが出来る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの受け入れや茶話会等を計画し、地域住民との交流を図る。</li> <li>・日常の外出や地域行事への参加、または事業所の行事への参加を働きかけ馴染みの関係をつくる。</li> <li>・地域運営推進会議を活用し災害訓練を実施したり、地域の防災訓練へ参加し、協力体制作りを努める。</li> </ul>	12ヶ月

